

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策4	未来を拓く人づくり
取組1	子育て環境の充実
取組の目的	健やかな子供を育てるため、地域が一体となって子育てする環境を整備します。

現状と課題	◎年々高まる保育需要に対応するため、認可保育所の新設や既存施設の定員拡大に努めてきたが、待機児童の解消には至っていない。 ◎子ども・子育て関連3法による児童福祉法の改正により、放課後児童クラブの受入対象年齢が小学6年生まで拡大
-------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	保育所待機児童数【人】	目標値	34	10	0	0	0	1
		実績値	34	18	5	16	30	
2	地域子育て支援センターの年間利用者数【人】	目標値	106,000	106,000	118,000	124,000	130,000	1
		実績値	97,364	97,091	98,952	95,063	92,588	
3	ふくろいファミリー・サポート・センター協力会員数【人】	目標値	375	375	403	417	430	1
		実績値	364	371	375	377	309	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	1.0

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	2	◎待機児童を解消するため、保育所新設や認可化移行への支援を行い、定員の拡大に努めてきたが、保育所申込者数の増加や、子ども子育て支援新制度の実施により待機児童の定義が変更されたことなどもあり待機児童数は30人となった。 ◎子育て支援センターの主な利用者は、家庭で子育てをしている乳幼児をもつ親子であるが、乳幼児人口が減少傾向にあることや、保育所等の定員増加により、家庭で子育てをしている親子の絶対数が減少している。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎後期基本計画期間中の待機児童解消を目指していたが、子ども・子育て支援新制度による入所要件の緩和や、施設整備による保育需要の喚起などにより、平成28年度の待機児童は25人となり、平成27度より減少したものの、待機児童の解消には至っていない。そのため、早急に保育環境の充実に努める必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎待機児童を解消するため、保育所新設や認可化移行への支援を行い、定員の拡大に努めてきた。また、平成27年度から新たに制度化された地域型保育事業により、小規模保育施設が新設されるなど、保育環境は改善されている。 しかし、高まる保育需要や子ども子育て支援新制度の実施により、待機児童は解消されていない。平成28年度の待機児童は25人で、緊急性は極めて高い。
評価結果の平均値	3.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又はえ代替手法あり
1	施設型子育て支援センター運営事業	4	4	4
2	巡回型子育て支援センター運営事業	3	3	4
3	地域子育て支援システム運営事業	4	4	4
4	ファミリーサポートセンター運営事業	4	3	4
5	母親クラブ育成事業	3	4	4
6	親スキルアップ講座開催事業	4	4	4
7	放課後児童クラブ運営事業	4	3	4
8	放課後児童クラブ施設管理事業	3	2	4
9	中央子育て支援センター運営事業	4	2	4
10	親子交流広場運営事業	3	2	4
11	民間保育所運営補助事業	4	3	4
12	民間保育所建設費補助事業	4	3	4
13	認証保育所・認可外保育施設補助事業	4	4	4
14	地域型保育事業	4	4	4
15	病児・病後児保育事業	3	2	4
16	妊婦支援事業	3	3	3
17	産婦・赤ちゃん訪問事業	4	4	4
18	乳幼児健診事業	4	4	4
19	公立幼稚園管理運営事業	3	3	4
20	私立幼稚園運営助成事業	3	3	4
21	徳育推進事業	4	4	4
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.6	3.2	4.0

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
1.0	3.3	3.6	2.6

4 ～ 3.6 : 順調 3.5 ～ 3 : 概ね順調 2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する 1.9 ～ 1 : 全体的に改善を要する

◎平成29年度の開園に向けて、(仮称)笠原認定こども園の建設や民間認可保育所の新設支援を行う。さらに、小規模保育事業所の新設、病児・病後児保育の実施等子育て環境のさらなる充実を図ると共に、待機児童の解消を目指す。 ◎放課後児童クラブの受入対象年齢が小学6年生までに拡大されており、平成31年度までに受入ができるよう、受入人数の拡大を図っていく。	H27の評価	一部に改善を要する
--	--------	-----------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	多様な保育サービスの充実	↗	保育需要の高まりにより、年々申込者数も増加している。特に0～2歳児の需要が高いため、ニーズに合わせた保育環境の充実を図る。
2	地域ぐるみの子育て支援の推進	→	地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図るため、子育ての不安や悩みの相談ができるなど、親子で交流ができる場所の提供を行っている。
3	早期療育の実施	↑	子ども支援施設を集約した「育ちの森」において、子ども一人ひとりに合わせた適切で切れ目のない支援を行っていく。
4	徳育の推進	→	袋井市の教育理念「心ゆたかな人づくり」の具現化を図るため、市民(個人・団体)との徳育推進協働事業を今後も継続して実施し、市民の視点で徳育を広めていく。
5	子育て世帯の不安の解消	→	地域全体で子育てを支援するとともに、子育て支援アプリ「フッピーのぼっけ」による情報提供を行うことで、不安の解消に努める。また、子育てと仕事のバランスのとれた働き方を支援する。
6	子どもの安全の確保	→	袋井警察署やスクールガードボランティア・スクールガードリーダーとの連携など、子供が被害者となる犯罪や事故、虐待を未然に防ぐ体制づくりを進めていく。

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策4	未来を拓く人づくり
取組2	心ゆたかな若者の育成
取組の目的	知性にあふれ、ゆたかな感性と未来を拓く活力に満ちた若者を育みます。

現状と課題	◎小・中学校児童・生徒の不登校、軽度発達障害の子どもの割合は全国平均より若干高い状況にある。 こうしたことから、今後は、一人ひとりの「わかった」「できた」を大切に授業や、「自分は頼りにされている」という実感を学校生活の中でもたせる活動などを充実させていくとともに、各小・中学校において教育課題を共有することで、学力向上やいじめ・不登校の未然防止、グローバル化への対応等を図っていく必要がある。
-------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	基礎学力(自ら考える力を含む)が身についている児童・生徒の割合(小5・中2)【%】	目標値	小5 90.8 中2 71.0	小5 91.1 中2 72.0	小5 91.4 中2 73.0	小5 91.7 中2 74.0	小5 92.0 中2 75.0	小5 2
		実績値	小5 84.0 中2 73.0	小5 88.0 中2 69.8	小5 79.2 中2 71.8	小5 85.0 中2 78.0	小5 88.0 中2 78.0	中2 3
2	基礎体力が身についている児童・生徒の割合(小6・中3)【%】 ※H25以降は(小5・中2)	目標値	85.0	86.0	88.0	89.0	90.0	1
		実績値	50.0	50.0	59.4	76.1	56.0	
3	地域活動やボランティア活動に参加している児童・生徒の割合(小6・中3)【%】	目標値	78.0	79.0	81.0	83.0	85.0	2
		実績値	75.7	75.3	75.7	74.8	77.0	
4	自ら進んで読書活動に取り組んでいる児童・生徒の割合(小6・中3)【%】	目標値	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	2
		実績値	23.5	27.6	25.4	23.5	27.2	
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている							評価結果の平均点	2.0

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	2	◎「基礎体力が身についている児童・生徒の割合」は、前年度と比較すると実績値は低下した。内容を分析すると、小中学校とも、女子の体力合計点は過去最高値になった一方で、小中学校の男女ともに「ボール投げ」「握力」が過去最低値になっており、結果を踏まえた授業等の工夫・改善とともに、課題である「投」の領域への取り組みなどを考えていく必要がある。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎小・中学校児童・生徒の不登校、軽度発達障害の子どもの割合は全国平均より若干高い状況にあり、一人ひとりの「わかった」「できた」を大切に授業や、「自分は頼りにされている」という実感を学校生活の中でもたせる活動などを充実させていくとともに、各小・中学校において教育課題を共有することで、学力向上やいじめ・不登校の未然防止、グローバル化への対応等を早急に図っていく必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎少子化や核家族化の進行、都市化や情報化の進展、急速なグローバル社会の進展、経済格差拡大の懸念等、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化している。このような状況の中で、自らの能力を十分に発揮し、活躍していくために、より一層「確かな学力」や「健康でたくましい身体」「豊かな心」の育成を進める必要がある。
評価結果の平均値	3.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	(児童・生徒)健康診断事業	3	3	4
2	外国人児童生徒支援事業	4	4	4
3	要保護・準要保護(児童・生徒)就学援助事業	4	3	4
4	特別支援教育推進事業	4	4	4
5	外国人児童生徒支援事業	4	4	4
6	学校活動費支援事業	4	4	4
7	情報教育推進事業	4	4	4
8	元気な学校づくり推進事業補助金交付事業	4	4	4
9	小中連携学力向上対策事業	4	4	4
10	国際理解教育推進事業	4	4	4
11	教育施設大規模改修事業	4	4	4
12	教育支援センター事業	4	4	4
13	いじめ・不登校未然防止事業(魅力ある学校づくり)	4	4	4
14	読書活動推進事業	4	4	4
15	人権教育推進事業	3	3	3
16	農を活かした授業づくり事業	3	3	3
17	部活動推進事業	4	4	4
18	外国人児童生徒サポート事業(レインボープラン)	4	4	4
19	学校図書館サポート事業(レインボープラン)	4	4	4
20	特別支援学級等支援員事業(レインボープラン)	4	4	4
21	小中学校応援サポート事業(レインボープラン)	4	4	4
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.9	3.9	3.8
				3.9

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.0	3.3	3.9	3.1

4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

◎授業改善検証システムを機能させ、ICT機器等の活用により確かな学力を身につけた子どもを育成するとともに、小中一貫教育を活かして小・中学校の英語教育の充実を図る。 ◎いじめ・不登校対策に積極的に取り組むとともに、一人ひとりのニーズに応じた支援の充実を図る。保護者や地域住民の学校運営への参画・協力を図り、地域づくりの一環として地域とともにある学校づくりを推進する。	H 27 の 評 価	概ね順調
---	------------------------	------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	自ら考える力を育む教育の推進	↗	学力・学習状況調査を活用して児童生徒の実態をきめ細かく把握するとともに、授業改善検証システムをさらに機能させることで、小学1年から中学3年まで一貫した授業改善の取り組みを進める。
2	ゆたかな心を育む教育の推進	→	徳育で培ってきた「人のために何かができる」という考え方を大切にし、日常的な徳育活動を引き続き推進するとともに、社会のために何かをしようとする心を持ったグローバルな人づくりを進める。
3	たくましい身体を育む教育の推進	↗	子どもの運動能力を的確に把握して、目標をもって体力づくりに取り組む意欲を高めるとともに、元気で生き生きとした子どもを育成するため、食育を通して健やかな体を育む教育を推進する。
4	安心して快適に学べる教育環境の充実	↗	情報化社会に対応できる「情報活用能力」を身につけさせるために、必要な機器や施設設備を教育情報化計画に沿って計画的に進める。また、教育支援センターと学校との連携を密にし、学校に復帰できる環境を整えていく。
5	社会全体が連携した若者育成の推進	→	コミュニティスクールの導入を通して、保護者や地域住民の学校運営への参画・協力を図り、活力に満ちた地域とともにある学校づくりを推進する。
6	農を活かした若者づくり	→	各学校とも特色ある活動を展開し、様々な効果をあげている。各小中学校等の個性を重視した教育の振興・充実を図ることを目的に、元気な学校づくりの一環として、今後も継続していく。

《 展開方向 》 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成27年度実績)

政策4	未来を拓く人づくり
取組3	芸術・文化・生涯学習の推進
取組の目的	市民の主体的な生涯学習活動を支援するとともに、多彩な生涯学習活動の機会を提供し、芸術・文化・学習活動を推進します。

現状と課題	◎生涯学習や文化・芸術の振興は、個人レベルの成長を促すだけでなく、まちづくりの観点からも有効な手段であるという認識が広まり、これまでの生きがいづくりや楽しく学ぶ学習活動に加えて、生涯学習の推進を通じて人や社会とのつながりを深め、学んだ成果を周囲の人々や地域に還元することで、地域社会全体の活性化や発展につなげるという視点が求められている。
-------	---

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H27の 評価点
1	公民館・中央公民館・月見の里学遊館 の利用者数【人】	目標値	506,500	507,500	508,000	508,000	510,000	2
		実績値	456,266	466,808	489,442	450,466	452,036	
2	生涯学習活動のリーダー数【人】	目標値	279	290	290	300	300	2
		実績値	279	269	269	269	280	
3	図書館における図書貸出冊数【冊】	目標値	530,000	550,000	600,000	650,000	712,200	2
		実績値	531,964	538,838	538,325	531,652	534,149	
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている							評価結果の平均点	2.0

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H27	評価理由
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎各公民館の利用者数は、工夫を凝らした講座の実施や市民企画型講座の実施、公民館まつりなどの地域住民が集う事業を実施したことにより、一定の利用者数を保った。一方、月見の里学遊館では、月見の里室内楽アカデミーなどの音楽事業の定着と屋外イベントなどを実施したことにより、利用者増となった。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎芸術や文化、生涯学習は、生活に潤いや生きがいを与えるものであると同時に、まちを活性化させ、人と人の交流を呼び込み、魅力あるまちづくりに寄与する要素を持ち合わせている。 また、公民館や図書館などは、芸術・文化・生涯学習活動の推進において、市民が自ら学ぶ機会を提供する場であり、その整備や内容の充実が必要である。 ◎一部の自治体では、まちづくりの視点に芸術や文化、生涯学習の要素を取り入れていて、本市としても、観光施策やまちづくり、高齢者対策などに活かす必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎文化・芸術・生涯学習の取組は、すぐに効果が確認できるものは少なく、中長期的に取り組んでいく必要がある。 そのため、取組としての緊急性は高くないが、継続した取組が求められている。
評価結果の平均値	2.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	公民館運営事業	4	4	4
2	特色ある公民館づくり補助事業	3	3	3
3	彫刻のあるまちづくり事業	3	3	3
4	市民文化活動補助事業	3	3	3
5	月見の里学遊館運営事業	4	4	2
6	学生助成事業	3	3	3
7	講座等開催助成事業	3	3	3
8	澤野医院記念館公開事業	4	4	4
9	久野城址保存会運営補助事業	4	4	4
10	郷土資料館運営事業	4	4	4
11	歴史文化館運営事業	4	4	4
12	図書館運営事業(袋井図書館+浅羽図書館+月見の里分室)	4	4	4
13	図書館蔵書充実事業(袋井図書館+浅羽図書館+月見の里分室)	4	4	4
14	ブックスタート事業	4	4	4
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
評価結果の平均値		3.6	3.6	3.5

取組の総合評価と今後の展開方向

取 組 の 評 価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.0	2.3	3.6	2.6

4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

◎公民館のコミュニティセンター化を進めるほか、社会教育施設や各種団体等の社会教育事業の支援を通して、学びや体験、仲間づくり、社会参加などの生涯学習活動が効果的にまちづくりに生かされていく仕組みづくりに取り組む。 ◎月見の里学遊館事業や彫刻のあるまちづくり事業の推進などを通して、芸術・文化を市民により身近なものとし、市民生活にうおいと心のゆたかさを与える取組を実施していく。	H27の評価	一部に改善を要する
---	--------	-----------

番号	取組の基本方針	H27	今後の展開方向
1	芸術・文化・学習機会の提供	→	生涯学習や文化・芸術の振興は個人レベルの成長を促すだけでなく、まちづくりの視点も取り入れ、市民が気軽に学ぶ機会や文化・芸術に触れられる機会の提供に努める。
2	市民の主体的な活動の推進	→	公民館における活動を支援することで、市民が主体的に生涯学習活動に取り組める環境をつくるとともに、地域づくりの推進やコミュニティの醸成を図る。
3	図書館機能の充実	→	図書館資料全体(図書資料・電子媒体)について利用促進を目指し、情報発信を行うとともに、郷土資料を県立中央図書館「ふじのくにデジタルアーカイブ」を通じて公開し、利用の広報を行う。
4	読書の推進	→	市民の読書活動の推進に役立つ事業を企画・開催し、読書推進にかかる意識づけ・啓発、及び図書館の活用を通じた市民生活の充実に努める。
5	郷土の歴史・文化の伝承と偉人の顕彰	→	郷土への誇りを育むため、文化遺産の保存、継承に努めていく。また、各館が連携して展示を更新するなど、常に新しい内容を紹介できるよう展示や研修を充実させていく。
6			

<< 展開方向 >> 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘